

展勝地風土記

Vol.25

平成30年10月26日

展勝地開園100周年記念事業準備委員会
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎7218279

展勝地開園100周年記念事業準備委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は平成31年1月25日に発行します。

北上展勝地と名勝小金井桜

石田 精一

展勝地との出会いと交流

私と北上市との交流は平成12年、市役所の文化財係からの電話で始まった。「岩手県の北上市に小金井の山桜があるという話をご存知ですか」。私は「初めてお聞きしました。現地をお訪ねして直接お話を伺うしかないですね」と答え、まずは個人的な訪問ということで、北上市へ向かった。

北上さくららの会の熊谷明彦事務局長と和賀篤子副会長が迎えに来てくださり、同会副会長長軽石昇さんや事務局の高野忠俊さん、そして地元コミュニティ誌編集の加藤俊夫さんに展勝地レストハウスで引き合わされて北上展勝地の現況についてのお話を伺った。その後、陣ヶ丘の「小

金井山桜」を見学し男山付近、国見山、極楽寺周辺を案内していただいた。

小金井と遠く離れた北上の地に、小金井桜と同じ桜が現存していることに感動し、桜を想う北上の皆さんの熱い気持ちに強く打たれた。

その後、小金井からは平成13年、19年、24年に北上を訪問した。北上からは平成14年に大勢のお客さまを小金井にお迎えした。この時は茨城県桜川からも桜川磯部稲村神社の磯部宮司らをお迎えし、小金井市長ほか関係者多数を交えて「桜川・小金井・北上三世代交流会」を行った。

平成13年の展勝地公園開園80周年記念式典では、小金井市の稲葉市長が伊藤北上市長から「北上桜里帰り」

の目録を頂戴した。そして平成19年、文化庁の現状変更許可の手続きを経て、玉川上水の小金井橋付近で植樹式が行われ、伊藤北上市長、稲葉小金井市長、名勝小金井桜の会の大久保会長らにより5本の北上里帰り桜が植栽された。この時も北上からのお客さまをお迎えして交流が行われた。

平成23年2月に、伊藤北上市長、桜川磯部稲村神社の磯部宮司、吉野山保勝会の山本事務局長、東京都関係者らにより、「史跡玉川上水整備活用計画」による小金井桜復活第1歩の植樹式が雪の降る中で行われ、最初の26本の苗木が植栽された。

名勝小金井桜の復活

小金井桜は元文2年(1737年)



満開の小金井桜花の後ろにはケヤキなどの雑木が茂っている

ころ、江戸に水を送るために開設された玉川上水の中流部の両岸に、当時武蔵野新田の世話役だった川崎平右衛門が10年の歳月をかけて植えたと伝えられている。

大正13年に国の名勝に指定され、関東随一の花の名所と呼ばれて花見客が押し寄せた小金井桜であったが、戦中・戦後の混乱の中で見る影もなく衰退してしまった。

一方で廃止転用の声が上がる中で東京都は昭和60年、玉川上水を保全



平成23年2月11日に行われた名勝小金井桜植樹式。左から伊藤北上市長、桜川磯部稲村神社の磯部宮司、吉野山保勝会の山本事務局長(撮影小金井市)

また、地元の法政大学理工学部で平成27年からDNAに着目する方法により、小金井桜の古木を系統別に分類し母樹選定の参考にする研究が行われている。この研究は今後さらに桜川の山桜、北

小金井桜の後継樹の育成は江戸時代からの小金井桜の系譜と名勝指定理由を考慮して選定することが定められている。現在は現存する小金井桜の中から樹種、幹周り、若芽の色など形態学的指標により、母樹の選定を行っている。

お世話になった。

するとの方針を決定した。長い期間の後、やっと平成21年に「史跡玉川上水整備活用計画」が策定された。この計画の中で名勝小金井桜の会は後継樹の百木の育成・供給を分担することとなり、小金井市から用地の提供を受けて苗木の育成を開始した。最初は実生苗による育苗を行ったが種間交雑の問題が発生し、その後苗木は全て接ぎ木で育成することにした。この間、北上の皆さまには苗木の供給や種子拾いなどで、大変お世話になった。

上の山桜と小金井桜の関連についても調査する予定で進められている。

むすび

名勝小金井桜の復活は当初とても実現は難しいと思われていたが、やがて東京都が正式に取り組むようになると次第に段階を踏みながら整備が進みつつある。

しかし、全体で6キロメートルの工事が終わるのはいつになるのか、今のところ見通しはついていない。

玉川上水の両岸に山桜が植えられてから280年、その間数多くの先人たちが桜を植え継ぎ、守ってきた。その情熱を受け継いで我々もく



名勝小金井桜の整備工事と後継樹苗木の植栽が終わった区間

筆者プロフィール

石田 精一

昭和5年東京都生まれ。

日産化学工業株式会社を退社した後、平成8年に「名勝小金井桜に親しむ会」を設立し代表に就任。平成19年には同会と「名勝小金井桜を守る会」を統合し、新たな「名勝小金井桜の会」の副会長となる。その後、平成22年に同会会長に就任し、平成30年まで歴任。現在は同会名誉会長。

じけずに今後の活動を続けていきたいと思っている。
北上との付き合いもそろそろ20年になる。その間、数々の交流を重ねながらいろいろとお世話になった。遠く離れてはいても小金井桜を見守ってくださる北上の皆さまの温かいお気持ちに心からお礼を申し上げます。
※役職や地名などは当時の内容で記載しています。